

令和4年度地域の絆づくり事業 第4回講座

「進化し続ける絵本のまち有田川 ～地域の資源をどう活かすか～」

令和5(2023)年3月17日(金) 14:00～16:30
有田川町地域交流センターALEC (参加者 16名)

1. ゲスト：杉本和子さんのお話

《杉本 和子(すぎもと かずこ)氏》

- ・金屋町文化保健センター図書室司書、金屋町立図書館司書、有田川町立金屋図書館司書を経て、現在、有田川町地域交流センターALECのセンター長として勤務
- ・有田川町が「絵本のまち」として全国的に認知されるようになった様々な取組を中心となって進める
- ・絵本作家を招いた読み聞かせイベントや、休校となった小学校の校舎を活用した「学校のおばけ屋敷」の開催など、図書館を核としたまちづくりに取り組み、「絵本のまち」の基盤をつくり、現在も、子供やその保護者に加え、地域の方も絵本に親しむきっかけになるような様々な取組を行う



○地域の人の想いを感じた経験

- ・数えるほどしか人が来ない図書室での勤務
- ・「何かしたい」と受講した読み聞かせ講座
- ・受講生と一緒に立ち上げたおはなしサークル「つくしんぼ」
→ 「子供たちのために」と考える人がこんなにいる、と嬉しくなった

○ブックスタート事業との出会い

- ・親子にとって意味のある活動
- ・現在まで続くロータリークラブの支援
- ・作家を呼ぶイベントの実施

○市町村合併

- ・毎日、何千冊にも及ぶ本を整理
- ・貸出システムの構築
→ H21 ALECがオープン
- ・熊取町からの移動図書館用車両の提供

○有田川ライブラリー構想

- ・金屋：児童サービス中心 → 年齢に応じた読書体験、こども司書の養成

- 吉備：文学中心
- 清水：図書室機能
- ALEC：交流センター機能
- 次は学校図書館！

○学校図書館の整備

- ・1校がうまくいくと、依頼が増える
- ・文部科学省が定める図書館図書標準との兼ね合い
- ・分類番号キャラクターを地元イラストレーターに依頼
- ・学校図書館とコミュニティセンター図書室の統合

○絵本のまちづくり

- ・絵本コンクール
- ・小さな駅美術館
- ・絵本マルシェ
- 絵本作家が自然に出入りするまちに
…でも、町民が「絵本のまち」を知らない



○廃校お化け屋敷

- ・冗談が現実
- ・地元の人の手作りで
- 絵本のまちブランドイメージ

○シンボルロード（廃線活用）

- ・ポップ絵本のみち
- ・小さな駅美術館からALECまで足を延ばしてもらえるように
- ・まちかど絵本箱

○取組を続けていくために

- ・人材育成：よみきかせ隊養成講座、有田川町絵本コンシェルジュ（※）養成
- ※町教育委員会が主催する養成講座を修了し「絵本シェルジュ」として認定された人。絵本と読者をつなぎ絵本の楽しさを伝える活動で絵本のまちづくりに貢献する。

○「絵本のまち」だと言えるか？

- ・お化け屋敷の復活 …趣旨を知らないまま
- ・図書館の利用は文化レベルを示す
- 図書館司書としてできることとは？を常に考えている
- 「子育てするなら有田川町」と言ってもらえるようにするには？

2. 施設見学



ウォークスルー型図書自動
貸出システム



書籍検索システム



作家に依頼した壁画

3. 座談会

○杉本氏が取組の中で大切にされてきた「人」をテーマにトーク

●…ゲスト ◎…参加者

《どのように協力者を集めるか》

○どのように協力者となってくれる人を集めているのか

- とにかく自分でできることから始めた
- 自分を磨く場として、不平等にならないよう地域全体に呼びかけた
- ◎実は何かしたいと考えている人はたくさんいると思う

《ボランティアの原動力とは》

- ◎読み聞かせをしてきた経験でいうと、一番の原動力は子供が喜んでくれることや子供の「ありがとう」
- 読み聞かせの仕方を本格的に学べる講座は多くないので、それを目的にしてくれていると思う
- 普段の何気ないボランティアとのやり取りの中で、よみきかせ隊やコンシェルジュのそれぞれの得意分野が活かされるよう心掛けている
- 信頼関係を築くことは大事
- ◎「ありがとう」や喜んでもらうことが最大の報酬（イッツ マイ プレジャー）

《ボランティアのモチベーションを保つためには》

- ◎ボランティア活動にしんどさを感じる方が出てくる
- 確かに様々な事情で活動が難しくなる方も出てくるが、だからこそ絶えず養成する人材を確保し、休める体制を作っている
- たとえ休会していても、やろうと思ったときにまたすぐに戻ってきやすいように声をかける
- 自分たちで無理なく楽しくやっていけるようにコンシェルジュの人たちにも意見を出してもらえそうな仲間づくりをしている

《人が集まる魅力的な取組をどのように生み出しているのか》

- ◎有田川町はやはり絵本のまち、取組を続けてきたことが浸透してきている
- ◎様々な取組の発想はどこからくるのか
- 大阪など他地域でやっている絵本のイベントに出かけて行って、ヒントを得て有田川町でできないだろうか考える
- こんなことができたらおもしろいな、楽しいなということを考えなければ、みんなに楽しんでもらえない
- 作家には町のいいことばかりではなく、町が抱える課題についても話をする
 - 親身になってもらえる
 - 有田川を応援してもらえる
- 作家の好みもつかみ、喜んでもらえるような準備をする
- 関係のスタッフとは、どうすれば人が集まるか、何ができるかよく話し合う

《人が集まる魅力的な取組の運用について》

- ◎町民を優先したりしないのか
- 町民にいち早く案内するというのはあるが、町外を外して考えるようなことはない
- 町外からも来てもらえることで、絵本のまちだと広く認知されるようになった
- ◎和歌山の人は連携することが苦手、もっと切磋琢磨した方がよい
- ◎独立してやるところと連携するところをバランスよくやればよい
- 連携はうまくできていない
- 「まちづくり」といっても、ALECがやっている取組だと認識されている面がある
- ◎自分のところだけうまくいけばよいというのはもったいない
- ◎外からの人も入れていかないといけない

《杉本氏の思いを引き継ぐ》

- ◎自分の思いや、やろうとしていることに賛同してくれる人との出会いが大きな力を生み出す
- ◎ぶれることなく、「絵本のまち」としていろいろな事業を展開してこられたところに有田川町のすごさがある
- ◎職員に思いを継いでいく難しさ→職員研修などはやっているのか
- 実際には異動があるため、思いを継いでいくことの難しさがある
- コンシェルジュなどにまちづくりの思いを伝えている
- ◎杉本さんのような方がいるということが分かっただけでも元気が出る



4. 振り返りシートから

- 今日の講座で得た「学び」と「つながり」

- ・とても面白かった。この研修が次にどう活かせるかをあらかじめ準備しておくようになります。また楽しめるようになります。
- ・「人はどうしたら集まってくるのか？」というテーマはとても興味深く、難しい問題であるなと思いました。人を集めるための努力や知恵というのはなかなか難しく、長い年月が必要になってくるように思いました。その間に人を育てる必要があるのかな？
- ・何かを始めようという時、役場との対立というのは避けて通れないということを学んだとともに、その中で「こういうことができればいい」とか「こうなればいいよね」というビジョンが自分の中にないと、戦っていくことは難しいと感じた。
- ・同じ課で働いていても、物理的に離れているので、ALECでの取組への認識や熱意があまりわかっていなかったと思いました。
- ・「想いをもって」また「関わる人を大切に」を信条に、地域づくりのキーパーソンがいて、若手につながっていることが素晴らしく感じました。
- ・自分の想いを大切に、人を大切にしながら、絵本のまちづくりに取り組まれてきた姿がとてもよくわかりました。
- ・杉本さんが旧金屋町で採用されてから現在にいたるまで、多くの困難・苦労があったことを知りました。さらに、それらが十分に評価されたり感謝されたりしてきたわけでもなく、それでもあきらめずにできることを1つ1つ実行されたから、今があるということだったので、杉本さんのひたむきな姿勢を見習いたいと思いました。また何をするにしても、人の協力を得て、人に来てもらってと、社会教育において人と人とのつながりが必要不可欠であると再確認できました。

○「学び」や「つながり」をどのように活かしていきたいか

- ・どのような場合でも、工夫しなければうまくいきませんし、どこでも苦労があります。だからどうするかですね。
- ・仕事のモチベーションの持ち方とボランティアの活動の仕方を考えさせられました。これからは活かしていきたいと思います。
- ・今の役職で今まで自分が関わってきたことは、こちらからの一方的なサービスのようなものが多い気がしている。それだけでなく、住人と我々、ともに協調して事を進めていく、という方向性も必要であると、改めて強く実感した。
- ・自分のやりたいことや、町の取組について、より熱意を持って仕事をしたいと思う。
- ・まちづくり会で、空き店舗・駅舎を活用した「まちなか図書館」「駅なか図書館」の構想を話し合っています。今日の話聞き、私たちは大きな事はできませんが、住人に身近なコミュニティのある「たまり場」を目標にがんばればと思います。感謝！
- ・熱い想いをなくさず、目標を明確にして仕事に取り組みたいと思います。
- ・杉本さんの町や図書館を盛り上げようとする熱意に感銘を受けました。杉本さんのように、様々なアイデアを生み出せるように、幅広い知識を得たり、今までやったことのない経験を積んだり、社会教育課の職員として成長していくための努力を重ねていきたいと思います。